

授業科目	作業療法治療学実習 I				
担当者	辻 郁, 足立 一, 井口 知也, 掛川 泰朗, 林部 美紀, 山田 隆人, 吉田 文 (すべて実務経験者)				(オムニバス)
実務経験者の概要	辻) 作業療法士免許取得後, 医療機関, 保健行政で作業療法を実践してきた。特に保健行政では, 身体障害, 老年期障害, 精神障害, 発達障害, 一般住民など多様な方々への作業療法を行ってきた				
学科名	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

実際の対象者（演習協力者）に対し，作業療法評価（作業療法に関連する情報収集と情報の統合もよび課題の焦点化と作業療法計画）を実施し，ICF の枠組みで系統立てて報告する

■ 到達目標

1. 対象者に関連する医学的情報が十分理解できる
2. 作業療法評価計画が立案できる
3. 正確な情報が収集できる
4. 情報を統合し，ICF の枠組みで対象者を理解できる
5. 実践結果をまとめて報告できる

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 関連する医学的知識を修得する 評価計画を立案する
- 第3回 情報収集実践 1
- 第4回 フィードバック
- 第5回 情報収集実践 2
- 第6回 フィードバック
- 第7回 情報収集実践 3
- 第8回 フィードバック
- 第9回 全体フィードバック
- 第10回 情報収集実践 4
- 第11回 フィードバック
- 第12回 情報収集実践 5
- 第13回 フィードバック
- 第14回 まとめと報告
- 第15回 報告書作成

■ 評価方法

- 実践後の記録・レポート 35%
- 実践技術 40%
- 最終報告・報告書 25%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

- 実践に関連する知識と技術を習得し練習しておくこと
- 実践後には，レポートをまとめて必要な知識を深化させておくこと

■ 教科書

書 名：不要

■ 参考図書

■ 留意事項

健康に留意し、実践に影響が出ないように十分な自己管理をすること
障害がある方の協力があって成り立つ授業であるから、普段の講義以上に真摯な態度で臨むこと

■ 講義受講にあたって

座学で学んだ知識や演習で習得した技術をこの経験を通して統合していきます。そのためには、これまでの復習と本授業に臨むための準備は不可欠です。十分な準備をしましょう。